

2009-25018B

厚生労働科学研究費補助金
がん臨床研究事業

生存率とQOLの向上を目指したがん切除後の
形成再建手技の標準化に関する研究

平成19年度～21年度 総合研究報告書

研究代表者 中塚 貴志

平成22(2010)年4月

目次

I. 総合研究報告	
生存率と QOL の向上を目指したがん切除後の形成再建手技の標準化に 関する研究	1
中塚貴志	
II. 研究成果の刊行に関する一覧表	13
III. 研究成果の刊行物・別刷	23

I. 総合研究報告

生存率と QOL の向上をめざした癌切除後の形成再建手技の標準化

研究代表者 中塚貴志 埼玉医科大学形成外科教授

研究要旨

近年、癌の治療成績は集学的治療法の発達とともに著しく向上している。形成外科的再建手技の進歩とともに固形癌切除後の組織欠損に対しても良好な機能と形態が得られるようになってきている。しかし、個々の再建方法に関しては、施設や術者によって少なからざる差異が認められる。そこで、より安全かつ確実な再建法の確立を目指し、身体諸部位における癌切除後の再建の術後成績を検討した。対象部位は、頭頸部、乳房、四肢・体幹とし、解析データをもとに標準化すべき再建方法の樹立を図った。なお、癌切除後の四肢リンパ浮腫も患者の QOL 低下につながる合併症であり、リンパ管静脈吻合による修復術の成績も検討に加えた。

研究分担者氏名・所属機関名及び所属機関における職名

中塚貴志	埼玉医科大学形成外科、 教授
多久嶋亮彦	杏林大学医学部形成外科、 教授
朝戸裕貴	独協医科大学形成外科、 教授
桜庭 実	国立がんセンター東病院 形成外科、医長
櫻井裕之	東京女子医科大学形成外 科、教授
木股敬裕	岡山大学大学院医歯薬学総 合研究科形成再建外科、教 授
矢野健二	大阪大学形成外科、教授
中川雅裕	静岡県立静岡がんセンター 形成外科、部長
澤泉雅之	癌研究会有明病院形成科、 部長

の症例における実際の再建方法（再建に用いる移植組織の選択や具体的な再建の手技など）に関しては、術者の経験・好みや施設によって異なっているのが実情である。一方、癌切除法に関しては、多くの分野で現在標準化の試みがなされつつあり、これに相応する形で形成再建術式の標準化を目指すことが医療サイドに強く求められている。

例えば、頭頸部領域では、癌切除による組織欠損が嚥下、咀嚼、発声、構音といった日常生活を営む上で欠くことのできない機能喪失につながるばかりでなく、個人の識別となる顔面形態の変形を生じ、その再建方法の選択および成否は患者の術後 QOL を決定する大きな要因となる。また、乳がん切除に伴う組織欠損は女性のシンボルとも言うべき乳房の変形・醜形をもたらし、精神的な痛みからの回復といった面からもより優れた再建が重要視される。

本研究では、身体各部位における固形癌切除後の再建術式の標準化を図るべく、各施設、研究者によるこれまでの再建法の術後成績および問題点を検討し、新たな機能評価法の確立をめざした。

なお、癌切除後の四肢のリンパ浮腫もがん患者の術後 QOL に大きな影響を与えるため、今回の研究の対象とした。

A. 研究目的

外科治療、特に形成再建手技の進歩とともに身体各部位における固形癌切除後の広範囲組織欠損に対しても良好な術後成績が得られるようになっている。しかし、個々

B. 研究方法

研究分担者はいずれも再建外科領域では豊富な経験を有しているが、施設により症例数の若干の偏りがあるため、研究者ごとに得意とする領域の再建について検討を行った。検討領域としては、頭頸部、乳房、

四肢・体幹に分類した。

基本的にはこれまで施行された症例の術後成績の検討を基として、各領域における最適の治療方法を探究し、術後成績や生存率に与える影響などを調べた。また、術後機能の評価方法に関しても頭頸部では再建術後の嚥下圧の測定を行い、乳房再建では新たな評価法を考案し検討を加えた。リンパ浮腫に関しては、インドシアニングリーン (ICG) を用いたリンパ管の走行や再生に関する基礎的研究や早期診断を目指し、さらにリンパ管静脈吻合施行例における新たな評価法を考案した。

(倫理面への配慮)

再建方法は基本的に free flap をはじめとしてすでに臨床的にも確立されている方法であるが、手術成績、合併症などについて十分なインフォームドコンセントを得ることで倫理面に配慮している。

また、本研究では個人が特定されることはないと思われるが、診療録やデータの保管については厳重に管理している。

なお、新たな検査方法や人工物を再建に用いる場合には、その施設の倫理委員会などで承認を得た上で、患者もしくは保護者に対する十分なインフォームドコンセントのもとに行った。

C. 研究結果

頭頸部においては、舌広範切除および再建手術施行例の生存率に関し、形成再建外科の立場から生存率の向上に寄与できる点について検討した。その結果、追加手術の必要な大合併症を生じた症例では生存率が有意に低いことが判明した。従って、再建に当たっては大きな合併症の発生を防止するような術式の選択が必要と考えられた。また、舌根が 1/2 以上切除され再建された症例の術後機能評価を行った。退院時に経口摂取可能かどうかで比較検討した結果、経口摂取不可能群は統計的に有意に高齢であった。従って、65 歳以上の高齢者では喉頭形成などの誤嚥防止策を標準的術式として追加する必要があると考えられた。さらに舌・口腔・中咽頭がんに対する広範囲切除 + 再建手術後症例において、嚥下圧を測定した。その結果、経口摂取不能例では経口摂取可能例に比べ、鼻咽腔圧、中咽頭圧、

下咽頭圧のいずれも有意に低下していた。また、誤嚥例では、非誤嚥例に比べ中咽頭圧が有意に低下していた。

下顎再建では、2 次再建—特に放射線性下顎骨壊死—のような症例に対し、新たな栄養血管を有する血管柄の長い肩甲骨皮弁が有用であると思われた。この新たな栄養血管は死体解剖においても確認された。また、血管柄つき遊離骨 (皮) 弁移植と再建プレート + 遊離組織移植を用いる方法を多施設からのデータを集計し、112 例の多数症例において比較したが、術後の大合併症はプレート再建例において有意に高率に発生した。また、術後の機能に関しても遊離骨 (皮) 弁での再建がより良好な成績を挙げており、再建法の第一選択としては血管柄つき遊離骨移植を用いるべきであると考えられた。

過去 18 年間に施行された頭頸部遊離組織移植による再建例 1065 例における術後吻合部血栓例に関して検討を加えた。その結果、47 例 (4.4%) において吻合部血栓を認め、皮弁救済率は 38.3% (29/47) と低かった。なお特に下咽頭再建では、遊離空腸移植術における静脈圧モニタリングの有用性が示唆された。

子宮がんや乳がんなどの切除後の四肢リンパ浮腫は患者にとって大きな問題であり、可能な限り予防・改善させることが重要である。ICG を用いた蛍光造影法は浅在性のリンパ管描出に優れており、外科的治療には有用な方法と思われた。今回は従来の Excellent, Good, Fair, Poor の他に、95% 以下に改善した部位と 105% 以上に悪化した部位が混在する場合を Mixed とし評価検討した。その結果、Mixed type は 11% の症例で認められた。

乳房再建には、自家組織を用いる方法と人工物 (プロテーゼ) を用いる方法とがある。前者には、有茎広背筋皮弁を用いる方法と遊離深下腹壁動脈穿通枝皮弁 (DIEP flap) を用いる方法が普及している。広背筋皮弁の適応は、乳房温存で全乳腺組織量の 1/2 程度までの切除例や、Skin (Nipple) sparing mastectomy で乳房が小さい場合である。乳房欠損が大きい場合には DIEP flap が選択される。人工物は、妊娠出産を望む若年者や下腹部に十分な脂肪組織がない患者、人工物を希望する患者に適応となる。

なお、DIEP flap では、術前検査で穿通枝が確認できれば犠牲も少なく十分な量の脂肪組織の移植が可能であり、良好な形態を得ることができることを確認した。人工物による再建は、複数の施設を調査したところ、多くの症例が乳癌切除と同時にエキスパンダーを挿入し、胸部皮膚を拡張した後に人工物（プロテーゼ）と入れ替える手術を行っていた。また、近年自家組織移植術よりも症例数が増加する傾向を認めた。

エキスパンダーとインプラントを用いる乳房再建では、172 例中 19 例(11%)に術後合併症が認められた。内訳は感染 6 例、乳房皮膚壊死 5 例、乳頭壊死 2 例、血腫 2 例、乳房創離開が 2 例などであった。

また、再建乳房に対する新たな整容性評価法を 10 施設から集計した 522 例に適用した。その結果、平均した評価点数の推移はおおむね臨床上的印象と合致しており、乳房変形の内容の把握や再建手術による整容性向上が確認できた。

体幹・四肢の腫瘍切除後の再建において、部位別に使用された皮弁を検討したところ、体幹・四肢近位の欠損は広背筋皮弁および腹直筋皮弁を代表とする大型の有茎皮弁でほぼ全ての修復を行うことが可能であった。一方、前腕と手、下腿と足では周囲に軟部組織の余裕がなく、多くの症例で遊離皮弁による再建が必要であった。過去 5 年間の骨軟部悪性腫瘍切除例を調査し、再建施行例と再建非施行例の再発率、転移率、死亡率を比較検討したが、両者の間に有意差を認めなかった。つまり、拡大切除を要するような進行した症例に対して行っている再建手術が、骨軟部腫瘍の予後に影響を与えないことが示唆された。一方、温存された患肢の ISOLS 機能評価の結果でも形成外科的再建により良好な機能をもたらすことが確認された。

D. 考察

これまで得られた上記の結果は、いずれもわが国では長年にわたり多数の症例・経験を有する施設・術者の検討結果であり、高い普遍性と妥当性を有すると考えられる。

頭頸部癌、特に舌癌切除後の再建では、術後合併症を生じないような再建法の確立により形成外科医が生存率の向上に寄与で

きる可能性があると考えられた。そのためには、各施設の術式の違いを把握しそれぞれの利点を取り入れた標準的術式を確立する必要がある。遊離空腸移植後の空腸片の静脈圧モニタリングは、静脈側の情報に関してはきわめて鋭敏かつ正確であるが、動脈側の情報に乏しい欠点がある。しかし、還流静脈の採取により、間欠的ではあるが移植空腸片組織内の代謝を把握することも可能であり、阻血・鬱血それぞれの判定も可能となることが期待される。術後の嚥下圧では切除範囲に応じて圧は全般的に低下を認めるが、健常者の 1/2 程度までの嚥下圧の低下は機能的に許容され、具体的には 30mmHg 程度までの中咽頭圧の低下であれば経口摂取が可能となることが分かった。このデータを元に、高齢など術前から嚥下圧の低下が予測される症例では、喉頭挙上術や輪状咽頭筋切開術などの嚥下改善策を標準術式として加える等の対策を講じることが出来ると考えられた。

血管柄つき骨移植による下顎再建は大合併症や術後機能の面でも優れているが、皮弁採取部の犠牲を伴い、手術時間も長くなるという欠点がある。従って、プレートによる下顎の再建は、高齢者や全身状態不良例、高度進行がん症例には適応があると思われた。放射線性骨壊死などは治療の困難な症例であるが、長い血管柄と位置的自由度の高い皮弁を有する移植組織は標準的治療となりうる。その面から、angular branch や新たな骨栄養血管を含む肩甲骨皮弁は応用性が高く有用な方法と思われる。今後、放治・化療後の salvage 手術にも応用できると考えられる。

遊離組織移植による最大の合併症は吻合部血栓による移植組織の全壊死であるが、今回の検討では吻合部血栓例中、非救済例は救済例に比べ再手術日が遅く対応の迅速さ・皮弁モニタリングの確立が必要と考えられた。この点、移植組織弁内静脈へのカテーテル挿入は、静脈圧の連続測定を可能とし、静脈側吻合部血栓に対するきわめて鋭敏な指標となりうる。

癌切除後の四肢のリンパ浮腫はこれまで難治とされてきたが、ICG 蛍光造影法を導入することにより、リンパ流の基礎的動態の解明に役立つばかりでなく、リンパ管静

脈吻合を確実なものとし、リンパ浮腫の治療方法の発展に大きく貢献すると考えられる。なお、リンパ管静脈吻合 (LVA) 後の評価方法は施設ごとにさまざま、いまだ決まった評価方法は存在しない。LVA の評価を難しくしている原因の1つとして、良く改善した部位とあまり改善しない (悪化した) 部位が混在する症例が多いことがあげられる。改善した部位だけでなく、悪化した部位も考慮した評価方法が必要だと考えられる。これからは病態解明だけでなく、リンパ浮腫の早期診断、早期治療もめざす必要があると考えられる。

エキスパンダー+インプラントによる乳房再建は、前胸部の皮膚・大胸筋が温存されていることが最低限必要であり、大胸筋温存乳房切除術や Skin-sparing mastectomy が適応となる。今回の検討では、本法を受ける患者は比較的年齢が若く、平均手術時間は短く平均出血量も少なく、他の術式と比較して侵襲が少ないことが分かった。近年 FDA の認可により人工物 (プロテーゼ) を用いた再建法も次第に普及する傾向にある。しかし、従来の自家組織移植術による再建法との比較検討はまだ十分にはなされていない。今後、合併症などの差異、整容性評価や患者の満足度調査を通して、適応基準などを明確にしていきたい。それにより、患者の治療に対する選択肢が広がり、より公平かつ公正な医療を受ける機会が増加すると考えられる。また、新たな整容性評価法は簡便であり、整容性評価の経過を観察する上で有用であった。

ISOLS の機能評価法を retrospective にさらに多くの患者に適応すれば、体幹・四肢の腫瘍切除後の皮弁による再建術の標準化を推し進めることができる。さらに、皮弁を用いた積極的な再建症例と用いなかった場合との成績の相違を比較検討することで再建術の適応基準を明らかにすることもできる。

E. 結論

身体各部位の固形癌切除後の組織再建には形成外科的な手技が多用されているが、施設や術者により再建方法に差異があるのが現状である。本研究では、より安全・確実に良好な術後機能を獲得できる再建手技

の確立を目指し、多数症例の解析を行った。その結果、多くの部位で遊離組織移植術が有効であることが裏付けられたが、四肢・体幹では有茎皮弁・筋皮弁の適応症例も多かった。

舌・口腔・中咽頭がん切除後の再建においては、合併症を減少させるための術式の工夫、標準化が必要と考えられた。再建術後の嚥下圧の測定は、これまで報告を見ないが、術後機能の予測を可能とし、有用な方法と考えられた。術前の機能評価により再建時の追加手術を加えるか否かの判断を行い、また術後機能不良例においては、その後の治療方針を決定する指針とすることが出来ると思われた。

下顎再建では、血管柄つき遊離骨 (皮) 弁移植が最も良好な術後機能、形態につながる事が明らかとなり、さらに放射線下顎骨壊死例などのような難しい2次再建例では新たな骨栄養枝を含む肩甲骨皮弁が良い適応となる事が示唆された。

四肢リンパ浮腫に対するリンパ管静脈吻合術 (LVA) の術後評価においては、改善した部位だけでなく、悪化した部位も考慮した評価方法が必要だと考えられる。

乳房再建においては、エキスパンダーとインプラントを用いる方法は、自家組織を用いた方法よりも侵襲が少なく手軽に行える手術方法といえる。しかし、本法によって対照的な乳房を得ることはやや難しく、合併症の比率も低くない。従って、乳腺外科医との綿密な連携がより重要となる。

四肢・体幹の腫瘍切除後の再建においては、予後調査および ISOLS 機能評価から、皮弁再建と積極的機能再建は患肢温存に役立ち、術後機能を高めるうえで重要であることが判明した。

F. 研究発表

1. 論文発表

1. Okazaki M, Asato H, Takushima A, Sarukawa S, Nakatsuka T, Yamada A, Harii K.: Analysis of salvage treatments following of the failure of free flap transfer caused by vascular thrombosis in reconstruction for head and neck cancer. *Plast Reconstr Surg*, 119(4):1223-32, 2007

2. 中塚貴志 頭頸部癌領域 移植組織の

- 壊死 *JOHNS* 23(6):1135-37, 2007
3. 中塚貴志：遊離空腸移植術 形成外科 51(3), 297-305, 2008
 4. 中塚貴志、横川秀樹、佐藤智也：頭頸部癌切除後の再建における移植床血管選択のポイント 形成外科 52(2), 135-141, 2009
 5. 中塚貴志、横川秀樹、百澤明：悪性腫瘍切除後再建（口腔） 形成外科 52 巻増刊 193-201, 2009
 6. 佐野仁美、市岡滋、菰田拓之、石川昌一、中塚貴志：静脈性潰瘍に対する内視鏡的筋膜下不全穿通枝切離術の経験 日形会誌 29:698-702, 2009.
 7. 南村愛、市岡滋、佐野仁美、中塚貴志：炭酸泉浴による創傷治癒効果の実験的検討 日形会誌 29:226-9, 2009.
 8. Ichioka S, Nakatsuka T.: Determinants of wound healing in bone marrow-impregnated collagen matrix treatment: impact of microcirculatory response to surgical debridement. *Wound Repair Regen.* 17:492-7, 2009.
 9. Yasumura T, Nakatsuka T.: Functional outcomes and reevaluation of esophageal speech after free jejunal transfer in two hundred thirty-six cases. *Ann Plast Surg.* 62:54-8, 2009.
 10. Morii T, Mochizuki K, Takushima A, Okazaki M, Satomi K: Soft tissue reconstruction using vascularized tissue transplantation following resection of musculoskeletal sarcoma: evaluation of oncologic and functional outcomes in 55 cases. *Annals of Plastic Surgery.* 62(3):252-257, 2009
 11. Takushima A, Harii K, Okazaki M, Ohura N, Momosawa A, Asato H.: Reconstruction of maxillectomy defects with free flaps – comparison of immediate and delayed reconstruction: A retrospective analysis of 51 cases. *Scandinavian Journal of Plastic and Reconstructive Surgery and Hand Surgery.* 41: 14-21, 2007
 12. Suga H, Okazaki M, Sarukawa S, Takushima A, Asato H: Free jejunal transfer for patients with a history of esophagectomy and gastric pull-up. *Annals of Plastic Surgery.* 58: 182-185, 2007
 13. Okazaki M, Asato H, Takushima A, Sarukawa S, Okochi M, Suga H, Harii K.: Reconstruction with rectus abdominis myocutaneous flap for total glossectomy with laryngectomy. *J Reconstr Microsurg* 23(5), 243-249, 2007
 14. Miyamoto S, Takushima A, Asato H, Yamada A, Harii K.: Secondary reconstruction of the eye socket in a free flap transferred after complete excision of the orbit. *Scandinavian Journal of Plastic and Reconstructive Surgery and Hand Surgery.* 41(2): 59-64, 2007
 15. 多久嶋亮彦, 波利井清紀：私の手術のコツ. 血管柄付き遊離腓骨移植による下顎再建. 形成外科 50(1): 71-80, 2007
 16. 多久嶋亮彦, 波利井清紀：再建部位による材料の選択と移植のコツ 下顎骨. *PEPARS* 15: 47-54, 2007
 17. Kurita M, Hirano K, Ebihara S, Takushima A, et al: Spontaneous regression of cervical lymph node metastasis in a patient with mesopharyngeal squamous cell carcinoma of the tongue: possible association between apoptosis and tumor regression. *International Journal of Clinical Oncology.* 12(6):448-454, 2007
 18. Kurita M, Okazaki M, Ozaki M, Miyamoto S, Takushima A, Harii K: Thermal effect of illumination on microsurgical transfer of free flaps: experimental study and clinical implications. *Scandinavian Journal of Plastic and Reconstructive Surgery and Hand Surgery.* 42(2): 58-66, 2008
 19. Miyamoto S, Takushima A, et al: Relationship between microvascular arterial anastomotic type and area of free flap survival: comparison of end-to-end, end-to-side, and retrograde arterial anastomosis. *Plastic & Reconstructive Surgery.* 121(6): 1901-1908, 2008
 20. Miyamoto S, Takushima A, et al: Free pectoral skin flap in the rat based on the long thoracic vessels: a new flap model for experimental study and microsurgical training. *Annals of Plastic Surgery.* 61(2): 209-214, 2008
 21. Miyamoto S, Okazaki M, Takushima A, et al: Versatility of a posterior-wall-first anastomotic technique using a short-thread double-needle microsuture for atherosclerotic arterial anastomosis. *Microsurgery.* 28(7): 505-508, 2008
 22. Miyamoto S, Takushima A, Okazaki M, Ohura N, Momosawa A, Harii K: Comparative study of different

- combinations of microvascular anastomosis types in a rat vasospasm model: versatility of end-to-side venous anastomosis in free tissue transfer for extremity reconstruction. *Journal of Trauma*. 66(3):831-834, 2009
23. Oki M, Asato H, Suzuki Y, Umekawa K, Takushima A, Okazaki M, Harii K: Salvage reconstruction of the oesophagus: a retrospective study of 15 cases. *Journal of plastic, reconstructive and aesthetic surgery*. 2009 Mar 19.
24. Kaji N, Kurita M, Ozaki M, Takushima A, Harii K, Narushima M, Wakita S: Experience of sclerotherapy and embolosclectherapy using ethanolamine oleate for vascular malformations of the head and neck. *Scand J Plast Reconstr Surg Hand Surg*. 43(3):126-136, 2009
25. Takushima A, Harii K, Okazaki M, Ohura N, Asato H: Availability of latissimus dorsi minigraft in smile reconstruction for incomplete facial paralysis: quantitative assessment based on the optical flow method. *Plastic & Reconstructive Surgery*. 123(4):1198-1208, 2009
26. Miyamoto S, Takushima A, Okazaki M, Momosawa A, Asato H, Harii K: Retrospective outcome analysis of temporalis muscle transfer for the treatment of paralytic lagophthalmos. *Journal of plastic, reconstructive and aesthetic surgery*. 62(9):1187-1195, 2009
27. 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 顔面神経麻痺治療における face-lifting の役割 -異常共同運動の治療を中心に---. *形成外科* 52(1): 59-67, 2009
28. 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 先天性顔面神経麻痺の外科的治療. *JOHNS*. 25(1): 105-108, 2009
29. 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 顔面軟部組織欠損の再建法. *形成外科* 52 巻増刊: S33-S40, 2009
30. 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 眼瞼の再建. *形成外科 ADVANCE シリーズ II-6*, pp 44-51, 克誠堂出版, 東京, 2009
31. Okazaki M, Asato H, Okochi M, Suga H: One-segment double vascular pedicled free jejunum transfer for the reconstruction of pharyngoesophageal defects. *J Reconstr Microsurg* 23(4): 213-218, 2007
32. Kawahara N, Sasaki T, Asakage T, Nakao K, Sugawara M, Asato H, Koshima I, Saito N: Long-term outcome following radical temporal bone resection for skull base malignancies. *J Neurosurg* 108: 501-510, 2008.
33. Watanabe K, Asakage T, Nakao K, Ebihara Y, Fujishiro Y, Okazaki K, Asato H, Sugawara M: Planned simultaneous cervical skin reconstruction for salvage total pharyngolaryngectomy. *Jpn J Clin Oncol* 38(3): 167-171, 2008.
34. 野村紘史, 朝戸裕貴, ほか: 乳房再建後に発症したモンドール病の 3 例. *形成外科* 53(2): 207-213, 2010
35. Daiko H, Sakuraba M, et al: Surgical Management of Carcinoma of the Cervical Esophagus. *Journal of Surgical Oncology* 96:166-172, 2007
36. Sarukawa S, Sakuraba M, et al: Immediate maxillary reconstruction after malignant tumor extirpation. *European Journal of Surgical Oncology* 33:518-523, 2007
37. 櫻庭実, 浅野隆之ほか: チタンメッシュと遊離皮弁による眼窩底一次再建 *形成外科* 50 : 869-875, 2007
38. 櫻庭実, 浅野隆之ほか: 下顎再建の方法～選択と問題点～日本マイクロサージャリー学会誌 20 : 287-292, 2007
39. 櫻庭実, 木股敬裕ほか: 穿通枝皮弁を用いた頭頸部の再建 *メディカル・サイエンス・ダイジェスト* 34 : 19-22, 2008
40. 櫻庭実, 木股敬裕ほか: 穿通枝皮弁を用いた頭頸部の再建. *メディカル・サイエンス・ダイジェスト* 34: 19-22, 2008
41. Sakuraba M., Kimata Y. et al: Three-dimensional Reconstruction of Supraglottic Structures after Partial Pharyngolaryngectomy for Hypopharyngeal Cancer. *Jpn J Clin Oncol* 38(6) 408-413, 2008
42. 土屋沙緒, 櫻庭実, 他: 拡大上顎全摘術後7年目に二次的上顎再建を施行した1症例. *日本頭蓋顎顔面外科学会誌* 24(1): 20-26, 2008
43. 竹村博一, 櫻庭実, 他: 化学放射線療法施行後の遺残, 再発症例に対する下咽頭喉頭全摘術の治療成績. *頭頸部癌* 34(1): 47-51, 2008
44. 櫻庭実, 他: 遊離空腸移植における切

除と再建の連携 -再建の立場から-。頭頸部癌 34(3):245-248, 2008

45. Kadota H, Sakuraba M.: Larynx-preserving esophagectomy and jejunal transfer for cervical esophageal carcinoma. Laryngoscope; 119:1274-80, 2009.

46. Yano T, Sakuraba M: Head and neck reconstruction with the deep inferior epigastric perforator flap: a report of two cases. Microsurgery; 29:287-92, 2009.

47. Kadota H, Sakuraba M: Analysis of thrombosis on postoperative day 5 or later after microvascular reconstruction for head and neck cancers. Head Neck; 31:635-41, 2009.

48. Yasumura T, Sakuraba M.: Functional outcomes and reevaluation of esophageal speech after free jejunal transfer in two hundred thirty-six cases. Ann Plast Surg; 62:54-8, 2009.

49. Sakuraba M, Kimata Y.: A new flap design for tongue reconstruction after total or subtotal glossectomy in thin patients. J Plast Reconstr Aesthet Surg; 62:795-9, 2009.

50. Sakurai H, Nozaki M, Takeuchi M, Soejima K, Yamai T, Kono T.: Monitoring the changes in intraparenchymatous venous pressure to assume flap viability. Plast Reconstr Surg; 119:2111-7, 2007.

51. Sakurai H, Yamaki T, Takeuchi M, Soejima K, Kono T, Nozaki M. Hemodynamic alterations in the transferred tissue to lower extremities. Microsurgery 29 : 101-106, 2009

52. Yamamoto Y, Sakurai H, Nakazawa H, Nozaki M. Effect of vascular augmentation on the haemodynamics and survival area in a rat abdominal perforator flap model. J Plast Reconstr Aesthet Surg 62:244-9, 2009

53. 木股敬裕、他. 鼠径部の軟部組織再建. 関節外科 26:108-114, 2007.

54. 木股敬裕、櫻庭実: 上顎癌切除後の一次再建と形態の回復. 形成外科 50 : 859-867, 2007.

55. 木股敬裕. 口腔・咽頭癌切除後の標準的再建法. 形成外科増刊号 50 : S197-202, 2007.

56. Kimata, Y. Microvascular and Pedicled Anterolateral Thigh Flap for Abdominal Wall Reconstruction. Grabb's Encyclopedia of Flaps, 3rd edition edited by Berish Strauch, Lippincott Williams & Wilkins, Philadelphia, 2008, in print.

57. 山田 潔, 木股敬裕. リンパ浮腫患者における ICG 蛍光リンパ管造影のパターン

と手術成績の比較検討. New Light for Minimally Invasive Surgery. ICG 蛍光 Navigation Surgery のすべて. インターメディアカ社. 東京. 2008. 313-325

58. 長谷川健二郎、目谷雅恵、雑賀美帆、木股敬裕: 男性下肢リンパ浮腫に対する ICG 蛍光リンパ管造影法を用いたリンパ管静脈吻合術、中国・四国整形外科学会雑誌 21(1)、189~193、2009

59. 長谷川健二郎、渡邊敏之、杉山成史、徳山英二郎、木股敬裕: ICG 蛍光リンパ管造影法を用いた上肢リンパ浮腫に対するリンパ管静脈吻合術、日本手の外科学会雑誌 25(5)、659~662、2009

60. Yano K, Hosokawa K, Masuoka T, et al., Options for immediate breast reconstruction following skin-sparing mastectomy. Breast Cancer. 2007; 14: 406-13.

61. Tomita K, Yano K, Masuoka T, et al., Postoperative seroma formation in breast reconstruction with latissimus dorsi flaps -A retrospective study of 174 consecutive cases-. Ann. Plast. Surg. 2007; 59: 149-51.

62. Masuoka T, Yano K, Hosokawa K, Shono F. Divided latissimus dorsi musculocutaneous flap for breast reconstruction. Plast. Reconstr. Surg. 2007; 119: 1136.

63. Ueda S, Tamaki Y, Yano K, et al., Cosmetic outcome and patient satisfaction after skin-sparing mastectomy for breast cancer with immediate reconstruction of the breast. Surgery. 2008; 143: 414-25.

64. Koichi Tomita, Kenji Yano, Ken Matsuda, et al., Aesthetic outcome of immediate reconstruction with latissimus dorsi myocutaneous flap following breast-conservative surgery and skin-sparing mastectomy. Ann. Plast. Surg. in press.

65. 矢野健二 乳房再建術後の整容性. 「日本臨床」増刊. 2007; 65: 465-8.

66. 矢野健二、玉木康博 乳癌術後乳房再建術に関するアンケート調査. 日形会誌. 2008; 28: 68-72.

67. 矢野健二、玉木康博 乳癌術後乳房再建術に関するアンケート調査. 乳癌の臨床. 2008; 22(6): 509-14.

68. 矢野健二 乳癌術後一期的乳房再建術 -乳癌術式に応じた乳房再建のテクニック-. 克誠堂出版 2007.

69. 矢野健二 乳癌診療の現況と今後の展

望 - 乳房再建術 -. 日本医師会雑誌. 2008; 137(4): 691-695.

70. 矢野健二 実写で示す乳房再建カラーアトラス - 広背筋皮弁を用いた乳房再建術 -. 永井書店 pp.120-134 2008.

71. Kikuchi M, Yano K, Hosokawa K, Preoperative preparation of the umbilicus. J Plast Reconstr Aesthet Surg. 2009; 62: 415.

72. Kubo T, Tomita K, Yano K, et al., Reconstruction of adult auricular defect with thin titanium mesh and pre-laminated free radial forearm flap. 2009; 43: 54-7.

73. Kikuchi M, Yano K, Lint in the belly button. J Plast Reconstr Aesthet Surg. 2009; 62: 282-3.

74. Tomita K, Hata Y, Yano K, et al., Effects of the in vivo predegenerated nerve graft on early Schwann cell migration: quantitative analysis using S100-GFP mice. Neurosci Lett. 2009; 461(1): 36-40.

75. Tomita K, Hosokawa K, Yano K, et al., Reanimation of reversible facial paralysis by the double innervation technique using an intraneural-dissected sural nerve graft. J Plast Reconstr Aesthet Surg. 2009; Epub.

76. 矢野健二 乳癌術後の乳房再建 - 乳房インプラント vs 皮弁再建 有茎広背筋皮弁による再建. 形成外科 2009; 52: 623-630.

77. 玉木康博, 矢野健二, 野口眞三郎 みんなに役立つ乳癌の基礎と臨床 - 乳癌の内視鏡手術 -. 医薬ジャーナル pp. 120-134 2009.

78. 中川雅裕, 福島千尋, 浅野隆之, 飯田拓也: インプラントによる乳房再建後に感染を生じ, DIEP flap にて再再建した1例 日形会誌 2010 掲載予定

79. 澤泉雅之ほか: 血管柄付き組織を用いた整形外科手術: 腫瘍切除後の膝周辺の再建. 関節外科 26:691-700,2007

80. 荻野晶弘, 澤泉雅之ほか: 末節切断における皮弁再建例 - 術後瘢痕拘縮の検討 -. 日本マイクロ会誌 20:115-123,2007

81. 澤泉雅之ほか: 指掌側皮弁におけるス

テップデザインの応用. 日本マイクロ会誌 20:124-132,2007

82. 澤泉雅之ほか: 掌側前進皮弁による指尖部再建 (step V-Y advancement 法). 形成外科 50:749-757,2007

83. 澤泉雅之, 丸山 優: 後脛骨動脈皮弁. Orthopaedics. 21:69-76,2008

84. 斎藤 亮, 澤泉雅之, 松本誠一, 長束由里, 山口利仁: 下肢への遊離組織移植における抗凝固療法: 低容量持続動注法の試み. 日本マイクロ会誌 21:380-387, 2008

2. 学会発表

1. 中塚貴志 安全かつやさしくマイクロサージャリーを行うためのポイント - 頭頸部再建を中心に - 第 34 回日本マイクロサージャリー学会 福島 2007,10,18.

2. 佐藤智也, 横川秀樹, 長谷川宏美, 中塚貴志: 下咽頭滑膜肉腫に対し遊離空腸移植による再建を行った1例 第35回日本マイクロサージャリー学会 新潟 2008.11

3. 多久嶋亮彦, ほか: 顔面神経不全麻痺に対する mini latissimus dorsi muscle transfer. 第30回日本顔面神経研究会, 名古屋, 2007, 6, 1.

4. Akihiko Takushima, et al.: One-stage latissimus dorsi transfer for facial animation. The 4th congress of the World Society for Reconstructive Microsurgery, Athens, Greece, 2007, 6, 24.

5. Akihiko Takushima, et al.: Cosmetic surgical approach in the treatment of incompletely-paralyzed face. The 14th International Congress of the International Confederation for Plastic, Reconstructive and Aesthetic Surgery. Berlin, Germany 2007, 6, 26-30.

6. 多久嶋亮彦, ほか: 顔面神経不全麻痺に対する美容外科的アプローチ. 第30回日本美容外科学会総会, 札幌, 2007, 10, 6.

7. 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 当科における微小血管吻合法. 第34回日本マイクロサージャリー学会, 福島, 2007, 10, 18.

8. 多久嶋亮彦: 形成外科領域における内視鏡の利用: 第36回杏林医学会総会, 東京, 2007, 11, 17.

9. 多久嶋亮彦, 波利井清紀: 当科における微小血管吻合法. 第34回日本マイクロサージャリー学会, 福島, 2007, 10, 18.

10. 多久嶋亮彦, 桜井裕之, 波利井清紀, 野崎幹弘: 血管茎に基づく皮弁の分類. 第 35 回日本マイクロサージャリー学会, 新潟, 2008, 11, 14.
11. 多久嶋亮彦, 岡崎睦, 大浦紀彦, 朝戸裕貴, 波利井清紀: 神経・血管柄付き遊離筋肉移植術を用いた「笑い」の再建. 第 52 回日本形成外科学会学術集会, 横浜, 2009, 4, 22.
12. Akihiko Takushima, Mutsumi Okazaki, Norihiko Ohura, Hiroataka Asato, Kiyonori Harii: Comparison of one- and two-stage reconstruction in the treatment of established facial paralysis. The 5th Congress of the World Society for Reconstructive Microsurgery, Okinawa, Japan, 2009, 6, 26.
13. Akihiko Takushima, Kiyonori Harii: Comparison of one- and two-stage reconstruction in the treatment of established facial paralysis. The 10th Congress of the International Confederation for Plastic Reconstructive and Aesthetic Surgery – Asian Pacific Section, Tokyo, Japan, 2009, 10, 10.
14. 多久嶋亮彦, 宮本慎平, 大浦紀彦, 尾崎峰, 波利井清紀: 下腿・足部の外傷に対する遊離皮弁を用いた再建. 第 36 回日本マイクロサージャリー学会, 徳島, 2009, 10, 22.
15. 多久嶋亮彦, 朝戸裕貴, 大浦紀彦, 波利井清紀: 複数の筋肉移植による顔面神経麻痺に対する動的再建術の検討. 第 36 回日本マイクロサージャリー学会, 徳島, 2009, 10, 23.
16. 梅川浩平, 朝戸裕貴ほか: 放射線治療後の晩期食道狭窄に対し遊離空腸移植を行った喉頭癌の 1 例. 第 59 回日本気管食道科学会総会学術講演会, 前橋, 2007, 11
17. Nomura H, Asato H, Suzuki Y, Kaji N, Zaha H: Muscle-sparing free TRAM flap after expansion of breast skin with tissue expander. The 9th Japan-Korea Congress of Plastic and Reconstructive Surgery, Okinawa, 2008, 2.
18. Oki M, Asato H, Suzuki Y, Umekawa K, Takushima A, Okazaki M, Harii K: Salvage surgery of failed esophagus reconstruction: a retrospective study of 15 cases. 15th World Congress for bronchoesophagology(WCBE), Tokyo, 2008, 3
19. 朝戸裕貴: 皮弁移植による乳房再建の術後評価について. シンポジウムⅢ 皮弁移植を考える - 手技の再考・評価法の確立 -, 第 52 回日本形成外科学会総会・学術集会, 横浜, 2008.04.
20. 野村紘史, 朝戸裕貴, ほか: 皮膚拡張後の筋体温存遊離腹直筋皮弁移植術における適応と再建 strategy. 第 52 回日本形成外科学会総会・学術集会, 横浜, 2009.04.
21. 櫻庭実, 浅野隆之ほか: 口唇全層切除後の再建例の検討. 第 33 回日本頭頸部癌学会、札幌
22. 櫻庭実ほか: マイクロサージャリーの適応と非適応例の結果～下顎再建～第 50 回日本形成外科学会総会 2007
23. 櫻庭実ほか: 頭頸部再建における皮弁の使い分け 第 31 回日本頭頸部癌学会、2007
24. 櫻庭実ほか: 放射線下顎骨壊死に対する遊離組織移植による再建術 第 34 回日本マイクロサージャリー学会、2007
25. Sakuraba M et al: Outcomes and reconstructive Surgery in Patients with Tongue Cancer. 9th Japan Korea Congress of Plastic and Reconstructive Surgery. 2008
26. Sakuraba M et al: Outcomes and reconstructive Surgery in Patients with Tongue Cancer. 9th Japan Korea Congress of Plastic and Reconstructive Surgery. 2008 Okinawa
27. Sakuraba M et al: Prognosis and reconstructive surgery in tongue cancer patient. 3rd European conference on head and neck oncology. 2008 in Zagreb
28. 櫻庭実ほか: 機能面を考慮した口腔・中咽頭再建、舌根広範囲切除例における摂食機能の他施設研究 第 32 回日本頭頸部癌学会
29. 櫻庭実ほか: 前外側大腿皮弁による頭頸部再建 220 例の検討 第 35 回日本マイクロサージャリー学会 新潟
30. Sakuraba M. et al: Outcomes and Functional Analysis after Mandible Reconstruction with Vascularized Bone Graft: Ten years' experience. 2009 Congress of World Society of Reconstructive Microsurgery. Okinawa
31. 櫻庭実ほか: 頭頸部再建のための皮弁移植～血管吻合トレーニング～. 第 36 回日本マイクロサージャリー学会、徳島
32. 木股敬裕ほか ICG 蛍光リンパ管造影

法を用いた下肢リンパ管静脈吻合術の検討
第 34 回日本マイクロサージャリー学会学
術集会 福島 2007.10.18

33. 「特発性リンパ浮腫に対する ICG 蛍光
リンパ管造影法を用いた LVA」第 51 回日
本形成外科学会総会・学術集会 (2008.4.9
~4.11 名古屋)

34. 「リンパ管細静脈吻合術後の評価~手
術部位別の検討法」第 51 回日本形成外科学
会総会・学術集会 (2008.4.9~4.11 名古屋)

35. 「リンパ管静脈吻合術における手作り
開創器」第 51 回日本形成外科学会総会・学
術集会 (2008.4.9~4.11 名古屋)

36. 「ICG 蛍光リンパ管造影法を用いた上
肢リンパ浮腫に対するリンパ管静脈吻合
術」第 35 回日本マイクロサージャリー学会
学術集会 (2008.11.14~15 新潟)

37. 「片側下肢リンパ浮腫症例の対側肢に
おける ICG 蛍光リンパ管造影所見の検討」
第 35 回日本マイクロサージャリー学会学
術集会 (2008.11.14~15 新潟)

38. 「特発性下肢リンパ浮腫に対する ICG
蛍光リンパ管造影法を用いた LVA」第 35
回日本マイクロサージャリー学会学術集会
(2008.11.14~15 新潟)

39. 「四肢リンパ浮腫に対するリンパ管静
脈吻合術における術後評価」第 35 回日本マ
イクロサージャリー学会学術集会
(2008.11.14~15 新潟)

40. 「リンパ浮腫におけるリンパ管静脈吻
合術の合併症、悪化例の検討」第 35 回日本
マイクロサージャリー学会学術集会
(2008.11.14~15 新潟)

41. 「皮弁移植後のリンパ管再生に関する
検討」第 35 回日本マイクロサージャリー学
会学術集会 (2008.11.14~15 新潟)

42. 片側下肢リンパ浮腫症例の対側肢 ICG 蛍
光リンパ管造影所見の検討

43. リンパ浮腫に対するリンパ管静脈吻合
術後の患者における自覚症状調査

44. 四肢リンパ浮腫に対するリンパ管静脈
脈吻合術における術後評価

42~44: 第 52 回日本形成外科学会総会・学
術集会 (2008.4.22~4.24 横浜)

45. Lymphaticovenous anastomosis using
indocyanine green fluorescence lymphography
for the treatment of lymphedema of the limbs

16. Indocyanine Green Fluorescence

Lymphography Navigated Lymphaticovenular
Anastomosis for Lymphedema Treatment :
Lymphographic Classification and Surgical
Effect

46. Lymphatic Anatomy with Consideration to
Surgical Treatments for Lymphedema
45~46: 5th Congress of the world Society for
Reconstructive Microsurgery : 25-27, June
2009 Okinawa

47. 蛍光観察用キセノン光源装置 (F-light
300) を用いたリンパ浮腫静脈吻合術
(LVA) 3 症例の経験 第 36 回日本マイク
ロサージャリー学会学術集会
(2009.10.22-23 徳島)

48. 矢野健二 シンポジウム: 乳癌術後の
乳房再建 (皮弁による再建) DIEP flap を
用いた乳房再建 - その適応と手術手技 -
第 12 回形成外科手術手技研究会. 2007 年
2 月 10 日、京都

49. 矢野健二 シンポジウム: 乳癌術後の
乳房再建 - 自家組織移植と人工物: その
適応と限界 - 広背筋皮弁による一期的乳
房再建の検討 - その適応と限界 - 第 50
回日本形成外科学会総会・学術集会.
2007 年 4 月 11 日、東京

50. Kenji Yano My experience of immediate
breast reconstruction for various types of
mastectomy defects. International
Oncoplastic Breast Surgery Symposium.
2007/9/15, Korea

51. 矢野健二 教育講演 2 "手術" 乳
癌術後一期的乳房再建術の実際. 第 5 回
日本乳癌学会近畿地方会. 2007 年 12 月 1
日、大阪

52. 矢野健二 イブニングセミナー「乳房
再建術と豊胸術-成功の秘訣」エキスパン
ダーとインプラントを用いた私の乳房再建法
- 特にエキスパンダーの挿入方法について -
第 51 回日本形成外科学会総会・学術
集会 2008 年 4 月 9 日、名古屋

53. 矢野健二 乳癌術後乳房再建術の現状
と今後の展望 京都乳癌座談会 2008 年 6
月 27 日、京都

54. 矢野健二 特別講演: 乳癌術式に応じ
た乳房再建術の実際 第 6 回日本乳癌学
会近畿地方会 2008 年 12 月 6 日、京都

55. 矢野健二 ランチョンセミナー「乳房再
建 インプラント vs 自家組織」乳癌術後
乳房再建の Strategy. 第 52 回日本形成

- 外科学会総会・学術集会. 2009年24日、横浜
56. 武石明精、矢野健二、ほか シンポジウム皮弁移植術を考える 一手技の再考・評価法の確立ー乳房再建:集計. 第52回日本形成外科学会総会・学術集会. 2009年24日、横浜
57. 矢野健二 ー整容的乳癌手術における乳房再建の役割ー自家組織による乳房再建乳腺外科・形成外科懇話会 西日本大会 2009年6月7日、大阪
58. Kenji Yano Instructional Course Lecture: Perforator Flap. The Deep Inferior Epigastric Perforator Free Flap for Breast Reconstruction. 5th Congress of the World Society for Reconstructive Microsurgery. 2009. 6. 25 Naha.
59. 矢野健二 下腹壁動脈穿通枝皮弁を用いた乳房再建の検討. 第17回日本乳癌学会学術総会. 2009年7月4日、東京
60. 金昇晋、矢野健二、ほか ワークショップ3 乳房の整容性 局所進行乳癌に対する術前化学療法後の一期的乳房再建 第17回日本乳癌学会学術総会. 2009年7月4日、東京
61. 矢野健二 乳房再建の実際. 乳癌学術情報交換会. 2009年7月9日、堺.
62. 茅野修史、中川雅裕ほか: 乳房インプラントと自家組織移植の比較: 整容性と満足度について 第52回日本形成外科学会総会・学術集会 横浜 2009.04
63. 中川雅裕、成田圭吾、赤澤聡、松村崇、川人龍夫: 乳房インプラントによる乳房再建の検討 第51回日本形成外科学会総会・学術集会 2008. 4. 11 東京
64. 永松将吾、中川雅裕、茅野修史、小泉拓也、赤澤聡: シリコンインプラントによる乳房再建後に感染し、DIEP flapにて再再建した一例 第31回日本美容外科学会総会 2008. 10. 12
65. 澤泉雅之ほか: 手の腫瘍における機能温存と再建、第50回日本形成外科学会総会・学術集会 東京 2007,4
66. 澤泉雅之ほか: 広範囲組織欠損補填の工夫; 軟部組織再建法の選択、第40回日本整形外科学会 骨・軟部腫瘍学術集会 山梨、2007,7
67. 澤泉雅之ほか: 下肢への遊離組織移植における持続動注法の試み、第34回日本マイクロサージェリー学会学術集会 福島 2007,10
68. 重光俊男ほか: 環指軟部肉腫に対し指動脈皮弁とISPを用いた指温存手術の経験、第40回日本整形外科学会 骨・軟部腫瘍学術集会 山梨、2007,7
69. 澤泉雅之ほか: 上腕骨近位骨欠損に対する血管柄付き腓骨頭移植を用いた再建、第34回日本マイクロサージェリー学会学術集会 福島 2007,10
70. 五木田茶舞ほか: 骨軟部肉腫の人工膝関節全置換術症例に対する腓腹筋皮弁の治療成績 第34回日本マイクロサージェリー学会学術集会 福島 2007,10
71. 澤泉雅之ほか: 膝周囲腫瘍切除後の皮膚軟部組織再建 第34回日本マイクロサージェリー学会学術集会 福島 2007,10
72. 齊藤亮、澤泉雅之、松本誠一: 足関節周辺組織欠損に対する再建の検討、第51回日本形成外科学会総会・学術集会、名古屋、2008 04
73. 齊藤亮、澤泉雅之、松本誠一、滝澤憲: Step ladder medial thigh V-Y advancement flapを用いた外陰部の再建、第51回日本形成外科学会総会・学術集会、名古屋、2008 04
74. 澤泉雅之、齊藤亮、松本誠一、丸山優: 有茎分割広背筋皮弁のRotation arc、第51回日本形成外科学会総会・学術集会、名古屋、2008 04
75. 澤泉雅之、齊藤亮、松本誠一、丸山優: 広背筋皮弁のV-Y Advancement法、第51回日本形成外科学会総会・学術集会、名古屋、2008 04
76. 澤泉雅之、矢島和宣、今井智浩、前田拓摩、松本誠一: 遊離大腿筋膜張筋皮弁を用いた下腿三頭筋再建と術後患肢機能評価 第35回日本マイクロサージェリー学会学術集会、新潟、2008、11
77. 齊藤亮、澤泉雅之、松本誠一: 悪性骨・軟部腫瘍切除後に足関節周囲に生じた広範囲組織欠損に対する再建方法の検討 第35回日本マイクロサージェリー学会学術集会、新潟、2008、11
78. 稲見浩平、澤泉雅之、矢島和宣、山口利

仁、今井智浩、松本誠一、前田拓摩、丸山 優：後期高齢者における上腕腫瘍切除後の肘関節機能再建の経験、第 35 回日本マイクロサージェリー学会学術集会 新潟、2008、11

79. 五木田茶舞、澤泉雅之、矢島和宣、松本誠一、真鍋 淳、下地 尚、佐藤信吾、川口智義：大腿四頭筋内発生の悪性繊維性組織球腫(MFH)に対して動的広背筋を用いた膝伸展機能再建の経験、第 35 回日本マイクロサージェリー学会学術集会、新潟、2008、11

80. 今井智浩、澤泉雅之、矢島和宣、山口利仁、稲見浩平、前田拓摩、松本誠一：巨大悪性軟部腫瘍切除後の肩甲下動静脈茎 combined flap による下肢再建—長期観察結果と術後患肢機能評価、第 35 回日本マイクロサージェリー学会学術集会、新潟 2008、11

81. 今井智浩、澤泉雅之、矢島和宣、山口利仁、稲見浩平、前田拓摩、松本誠一：遊離分割広背筋皮弁による悪性骨軟部腫瘍切除後の再建と術後患肢機能評価、第 35 回日本マイクロサージェリー学会学術集会、新潟 2008、11

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

II. 研究成果に関する一覧表

研究成果の刊行に関する一覧表

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
Harii K, Asato H, Takushim Kimata, Y.	Midface reconstruction.	Maths, S.	Plastic Surgery 2nds Ed.	Saunders	Philadel phia	2006	859-882
	Microvascular and Pedicled Anterolateral Thigh Flap for Abdominal Wall	Berish Strauch	Grabb's Encyclopedia of Flaps, 3rd edition.	Lippincott Williams & Wilkins	Philadel phia	2008	1150-51
多久嶋亮 彦, 波利井 清紀	Hemifacial microso mia 3) 軟部組織の 再建.	平林慎一	形成外科ADV ANCEシリー ズI-5	克誠堂出 版	東京	2008	166-174
多久嶋亮 彦	形成外科領域にお ける応用	野崎幹弘	標準形成外科 学	医学書院	東京	2008	69-73
多久嶋亮 彦, 波利井 清紀	眼瞼の再建	田原真也	形成外科ADV ANCEシリー ズII-6	克誠堂出 版	東京	2009	44-51
朝戸裕貴, 野村紘史	乳房再建の術後評 価	矢野健二	形成外科ADV ANCEシリー ズ: 乳房・乳 頭の再建と整 容: 最近の進 歩 (改訂2版)	克誠堂出 版	東京	2010	In press
山田 潔, 木股敬裕	リンパ浮腫患者に おけるICG蛍光リ ンパ管造影のパタ ーンと手術成績の 比較検討	草野満夫	ICG蛍光Navi gation Surge ryのすべて	インター メディカ 社	東京	2008	313-325
玉木康博, 矢野健二, 野口眞三 郎	乳癌の内視鏡手術	戸井雅和	みんなに役立 つ乳癌の基礎 と臨床	医薬ジャ ーナル	大阪	2009	542-549
今井智浩, 澤泉雅之	体幹、胸壁の局所 皮弁	山本有平	形成外科診療 プラクティス	文光堂	東京	2009	p267-268
別府 武, 澤泉雅之	耳下線腫瘍の手術	川端一嘉	頭頸部癌カラ ーアトラス	永井書店	大阪	2009	p170-186

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
-------	---------	------	----	-----	-----

Okazaki M, Asato H, Takushima A, Sarukawa S, Nakatsuka T, Yamada A, Harii K.	Analysis of salvage treatments following of the failure of free flap transfer caused by vascular thrombosis in reconstruction for head and neck cancer.	Plast Reconstr Surg,	119(4)	1223-32	2007
中塚貴志	頭頸部癌領域 移植 組織の壊死	JOHNS	23(8)	1135-37	2007
Takushima A, Harii K, Okazaki M, Ohura N, Momosawa A, Asato H.	Reconstruction of maxillectomy defects with free flaps - comparison of immediate and delayed reconstruction: retrospective analysis of 51 cases.	Scandinavia n Journal of Plastic and Reconstructive Surgery and Hand Surgery.	41(1)	14-21	2007
Suga H, Okazaki M, Sarukawa S, Takushima A, Asato H.	Free jejunal transfer for patients with a history of esophagectomy and gastric pull-up.	Annals of Plastic Surgery	58(2)	182-185	2007
Miyamoto S, Takushima A, Asato H, Yamada A, Harii K.	Secondary reconstruction of the eye socket in a free flap transferred after complete excision of the orbit.	Scandinavia n Journal of Plastic and Reconstructive Surgery and Hand Surgery.	41(2)	59-64	2007
Okazaki M, Asato H, Takushima A, Sarukawa S, Okochi M, Suga H, Harii K.	Reconstruction with rectus abdominis myocutaneous flap for total glossectomy with laryngectomy.	Journal of Reconstructive Microsurgery	23(5)	243-249	2007
多久嶋亮彦、波利井清紀	私の手術のコツ。血管柄付き遊離腓骨移植による下顎再建。	形成外科	50(1)	71-80	2007
多久嶋亮彦、波利井清紀	再建部位による材料の選択と移植のコツ 下顎骨。	PEPARS	15	47-54	2007
Okazaki M, Asato H, Okochi M, Suga H	One-segment double vascular pedicled free jejunum transfer for the reconstruction of pharyngoesophageal defects	J Reconstr Microsurg	23(4)	213-218	2007

木股敬裕、難波祐三郎、長谷川健二郎、杉山成史、尾崎敏文、別府保男、中馬広一、川井章、中谷文彦、櫻庭実	鼠径部の軟部組織再建	関節外科	26(6)	108-114	2007
木股敬裕、櫻庭実	上顎癌切除後の一次再建と形態の回復	形成外科	50(8)	859-867	2007
木股敬裕	口腔・咽頭癌切除後の標準的再建法	形成外科 増刊号	50	S197-202	2007
Daiko H, Hayashi R, Saikawa S, Sakuraba M.	Surgical Management of Carcinoma of the Cervical Esophagus	Journal of Surgical Oncology	96(2)	166-172	2007
Sarukawa S, Sakuraba M, Asano T, Yano T, Kimata Y, Hayashi R, Ebihara S	Immediate maxillary reconstruction after malignant tumor extirpation	European Journal of Surgical Oncology (EJSO)	33(4)	518-523	2007
櫻庭実, 浅野隆之, 矢野智之, 林隆一, 山崎光男, 宮崎眞和, 鶴久森徹, 木股敬裕	チタンメッシュと遊離皮弁による眼窩底一次再建	形成外科	50(8)	869-875	2007
櫻庭実, 浅野隆之, 矢野智之, 陳貴史, 田中颯太郎, 高梨昌幸, 土屋沙緒, 林隆一, 木股敬裕	下顎再建の方法 ～選択と問題点～	日本マイクロサージャリー学会会誌	20(3)	287-292	2007
櫻庭実, 木股敬裕, 林隆一	穿通枝皮弁を用いた頭頸部の再建	メディカル・サイエンス・ダイジェスト (MSD)	34(2)	19-22	2008
Sakurai H, M, Nozaki Y, Nakano M, Takeuchi T, Yamaki.	Successful Management of Giant Ischial Decubitus Ulcers Complicated with Urethral Disorder.	Journal of Plastic, Reconstructive & Aesthetic Surgery	[Epub ahead of print]		2007
Sakurai H, M, Nozaki M, Takeuchi M, Soejima K, Yamaki T, Kono T.	Monitoring the changes in intraparenchymatous venous pressure to ascertain flap viability.	Plast Reconstr Surg	119(7)	2111-7	2007

Yano K, Hosokawa K, Masuoka T, Matsuda K, Takada A, Taguchi T, Tamaki Y, Noguchi S	Options for immediate breast reconstruction following skin-sparing mastectomy	Breast Cancer	14(4)	406-13	2007
Tomita K, Yano K, Masuoka T, Matsuda K, Takada A, Hosokawa K.	Postoperative seroma formation in breast reconstruction with latissimus dorsi flaps: a retrospective study of 174 consecutive cases.	Annals of Plastic Surgery	59(2)	149-51	2007
Ueda S, Tamaki Y, Yano K, Okishiro N, Yanagisawa T, Imasato M, Shimazu K, Kim SJ, Miyoshi Y, Tanji Y, Taguchi T, Noguchi S.	Cosmetic outcome and patient satisfaction after skin-sparing mastectomy for breast cancer with immediate reconstruction of the breast.	Surgery	143(3)	414-25	2008
矢野健二	増刊号：乳癌－基礎・臨床のアップデート 1) 外科療法；乳房再建術後の整容性	日本臨床増刊号	65	465-8	2007
矢野健二、高田章好	乳癌切除後の標準的再建法	形成外科増刊号	50	S203-212	2007
矢野健二、玉木康博	乳癌術後乳房再建術に関するアンケート調査	日本形成外科学会誌	28(2)	68-72	2008
矢野健二、玉木康博	乳癌術後乳房再建術に関するアンケート調査	乳癌の臨床	22(6)	509-14	2007
澤泉雅之、荻野昌弘、丸山優、山口利仁	掌側前進皮弁による指尖部再建 (step V-Y advancement 法)	形成外科	50(7)	749-757	2007
澤泉雅之、荻野昌弘、丸山優、山口利仁	指掌側皮弁におけるステップデザインの応用	日本マイクロ会誌	20(2)	124-132	2007
澤泉雅之、松本誠一、眞鍋淳、川口智義	血管柄付き組織を用いた整形手術：腫瘍切除後の膝周辺の再建	関節外科	26(6)	691-700	2007